

# GIRLS, BE AMBITIOUS!



2015. 10. 22

創刊号

- ・ガールズ、ビー アンビシャス
- “LSのSGHの活動がよく分かる！”
- ～SGH情報誌… 探究活動が満載!!～



2015. 10. 17(土) SGH クラス内中間発表会&運営指導委員会

- ★実施の記録～1つの探究班の誕生物語～
- ★アドバイザーと共に探究活動を進めたら…!?
- ★探究計画書は…「探究の要であり地図」
- ★アクティブラーニング～ベストティーチャー賞をもらえ!～
- ★クラス内中間発表開催!
- ★GSLプロジェクト20より  
～シスター・エヴァ～



## ★実施の記録～1つの探究班の誕生物語～

平成 27 年 4 月、文科省より、スーパーグローバル  
ハイスクール SGH の指定を受けた本校は、グローバル  
サーバントリーダーの育成を目指して、LS コースのⅠ年  
生を対象に、課題解決型探究活動の実践を始めました。

4 月 10 日(金)の新入生合宿では、校内の合宿所で  
『SGH 入門編』が開講。内容は・・・

- ①白百合学園がめざすグローバル人材とは何か。
- ②課題解決型探究活動とは何か。
- ③探究領域が5つ『環境・企業・食・医療福祉・教育』  
となった理由。
- ④GSL プロジェクトについて

4 月の月上旬は、探究活動の基本や留意点をふまえ、実際に論題設定とブラウジングを実施。この頃、常に  
持ち合わせていたバイブルは・・・

『学びの技 14 歳からの探究・論文・プレゼンテーション 玉川大学出版』でした。



5 月に入ると、『国際理解』の授業を担当している阿部和彦教頭  
先生による特別講義『ケタイから見える世界と私達』を受講。  
いよいよ探究テーマの決定準備が始まり、お互いに今までの情  
報やデータを持ち寄り、似た内容どうしのグループを形成しつ  
つテーマの融合も行いました。5 月の末、『探究計画書』を作成。  
探究の動機、目的、活動の分担、スケジュールを話し合いなが  
ら、また、アドバイザーとの面談も予定に組み込みました。

アドバイザーは、担当教員が紹介したり、また、探究班で話し合っ  
て決定し、交渉してみる、という場合もあります。更に、現場訪問  
を先に行いながら、現状を分析し、その過程でアドバイザーを決  
定する班もあり、どの場合であっても、アドバイザーとの面談は、  
探究活動においてとても大切な時間になっていました。

7 月からはタブレットを一人一台活用。現実的に活動の幅が広が  
りました。アドバイザーとの連絡、探究班ごとの相談や打ち合わせ  
、更には・・・5 教科の問題も使いたい放題！←これには少し評判  
が・・・(笑)。

そんなこんなで誕生した SGH 一回生の探究班の一覧が以下です！

| 班 | 探究領域および探究テーマ                     | アドバイザー及びご協力者                              |
|---|----------------------------------|-------------------------------------------|
| 1 | 教育<br>『女子教育の進展のために何ができるか』        | 内田教授(お茶の水女子大学元副学長)<br>サンジブ氏(NPO 法人・理事長)   |
| 2 | 医療福祉・食<br>『災害時における弱者への援助体制について』  | 石井教授(東北大学大学院医学系研究科)<br>吉田教授(宮城大学看護学部)     |
| 3 | 教育・企業・食<br>『企業の海外進出における言語教育の問題点』 | 安蒜氏((株)ダッシュ)                              |
| 4 | 環境・食<br>『食品ロスの現状と貧困の子供たちを救うには』   | 高澤教授(仙台白百合女子大学)<br>各コンビニエンスストア            |
| 5 | 医療福祉<br>『高齢化社会の社会福祉の最善策』         | 白川教授(仙台白百合女子大学)<br>高齢者福祉施設等(仙台市内)         |
| 6 | 教育<br>『歴史認識を乗り越える～教育格差の改善～』      | 望月教授(東洋英和女学院大学)<br>勝間田准教授(東北大学大学院国際文化研究科) |
| 7 | 医療福祉<br>『バナナから見るフィリピンの経済格差』      | 小林氏((株)オルター・トレード・ジャパン)                    |

## ★アドバイザーと共に探究活動を進めたら…！？

今回ご紹介するのは…1 班と 3 班です。まずは、『女子教育の進展のために何ができるか』をテーマに活動している 1 班は、お茶の水女子大学の教授で、元副学長の内田伸子先生をアドバイザーに迎え、女子教育の歴史・現状を学びつつ、女子教育の良さを広く発信するために活動しています。最終目標は大震災で倒壊したネパールの女子校再建に向けて何ができるかです。探究をすすめるうちつながりが増えてきました。



7 月 24 日、本校で内田先生が『女性と男性の会話』

～会話は性差別の再生産の装置か？～講演会を開催して

下さり、その後、探究班と共に、『女子教育の歴史』と『ネパールの教育背景』との接点を探りつつ、今後の計画を打ち合わせしました。8 月 31 日(月)学園祭の代休の日ですが、お茶の水女子大学の歴史資料館と図書館に調査に出かけました。すると…お茶の水女子大学の室伏さきみ子学長や副学長が待っておられ

学長室で面談となって…生徒たちは探究活動の内容を報告。『みなさんに最大限協力します』と、学長の大激励をいただきました。(学長室で緊張の一コマ。)室伏学長はガンの痛みの研究をしている現役の研究者です。そして学長の最後の一言は、『みなさん理系女子ですね。出会えてとても嬉しいです。大学は、是非、お茶の水女大に来てくださいね！』でした。さあ、どうする白百合生！お茶の水女子大学への進学は、すでに学長面接が済んだぞ！後は…勉強するだけだよね！？



そしてこの班のネパールへのアプローチは…仙台駅東口にあるネパール料理店でのランチから始まりました。その店の名は…『カトマンドウ』です。ランチをいただきながら、店主のサンジブさんからネパールの現在の様子や支援についてお話が聞けました。なんと、サンジブさんは **NP0 法人「日本・ネパール文化交流クラブ」** の理事長であり、ネパールへの支援を幅広く行っている方だったのです！また、ここのお店のアルバイトの方は東北学院大学の学生たちで、やはりネパールへの支援活動を実施しています。8 月 3 日に学院大学で



の報告会に参加した生徒たちは、ネパールの現状をしっかりと把握し、次につながる活動展開を考察した様子。そんな時、ネパールの大衆歌謡歌手であるスダリミカさんのチャリティーコンサートを本校で開催することが決定しました。10 月 31 日開催します!! そこからどんな活動展開につながるのか…とても楽しみです。

次は、『企業の海外進出における言語教育の問題点』に挑む 3 班です。協力して下さるのは、台湾茶葉の輸入・販売を行ってい

る(株)ダッシュ様(台湾名:久順)。年商 1 億、自社農園・工場をもち、台湾茶葉の国内輸入シェア 25%を持つ企業です。探究のスタート地点は、『企業の問題を解決したいなら、企業の一社員となり、企業の製品を愛し、知り、研究することが大切』とご指導いただき、探究班は『白百合のお茶』の開発に取り組むことになりました。また、企業様との面談を通し、食品の安全性について、特に、食品添加物やカフェインについて探究す

る宿題も渡されました。更に、『生きたお金の使い方を学ぶこと』という企業様のご提案により、開発した商品の価値と責任・原価計算から定価設定・販売とは何か等々の講義を受け、10月17日に初めて、同窓会幹事会の場で販売することができました。



企業様に宿題の報告！



入念にテイスティング♪



様々な種類のお茶を探索



評価シートを持って打ち合わせ



ラベルのデザインも生徒の自信作!!  
でもさあ～寝坊して納期に遅れたよね～



完成です！

さて、この3班、お茶を作って売って・・・それが終わりではないのです。そう、ようやく企業の一員になれたに過ぎないのです。いよいよこれからが大切。今後、台湾の茶畑などを訪れつつ、どの様に探究活動を進めるのか・・・皆様、どうか応援よろしくお願いします。(残る5班の活動は次回に続きます。)

| ＜探究計画書＞(例)                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 提出日                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 2015年5月26日      |
| 班番号                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 27LS09          |
| 班員                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 〇〇××子 △△×美、□□平奈 |
| 1. 探究領域と探究テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 教員使用欄           |
| 領域：企業と医療福祉と食の融合                                                                                                                                                                                                                                                                               |                 |
| テーマ：貧困地域への効果的な食品の提供企業における問題点について                                                                                                                                                                                                                                                              |                 |
| 2. キーワード(3個程度：上記テーマを探究する上で、ポイントとなるワードを記入)                                                                                                                                                                                                                                                     |                 |
| 貧困地域の限定、はっちゃん食品の企業としての現状分析、高機能栄養食品の将来                                                                                                                                                                                                                                                         |                 |
| 3. 探究の動機：自分たちがその課題に気付いた経緯を記入                                                                                                                                                                                                                                                                  |                 |
| 貧困地域では、まず、子供の餓死が問題となる。食い止めるには、行政や国連の支援が必要だが、待っては行かない。直接、高機能栄養食品を届けている企業は、多くの矛盾を抱えながらも実地に支援活動を行っている。高機能栄養食品は開発費用が高く、1食あたりの単価が高い。そんな企業の中でも、はっちゃん食品は行政や基金を募って、高機能栄養食品の開発を行い、実際に昨年は、NPO法人△△と共に●●(地域)に××食を届けているが、原油の高騰で、次年度は続けられない。また、現地の団体は本当に信じられる団体なのか、何かを搾取しているのではないだろうか。私たちに出来ることはないだろうか。     |                 |
| 4. 探究の目的：探究で何を明らかにしたいのか。                                                                                                                                                                                                                                                                      |                 |
| まず、『はっちゃん食品が次年度も活動ができるようにしたい。』<br>そのために、高機能栄養食品の栄養の構成割合や、1食あたりの単価、行政やNPO法人との関係を明らかにしながら、高機能栄養食品が、実際に手元に届くまでに、どれだけのコスト(生産にかかるコスト・輸送費等)がかかるのか、どこにコスト削減のプランが考えられるのかを探究し、解決策をはっちゃん食品に提示。更に、一般人がはっちゃん食品に応援できるプランを考え実行に移す。内外に働きかけることで、散える命を増やし、この活動が、他の企業や自治体などにも取り組めるものであることを、〇〇サミットや××コンクールで発表する。 |                 |

探究計画書の左ページ部分

## ★探究計画書は探究の要であり地図だよね！

このSGHの探究活動を進めるうえで、一番に重要視したことは・・・『探究計画書』でした。ちょっと前まで中学生だった生徒たちに、突然『探究計画書』を書きなさい。締切は●日ですよ』と伝えても、かなりのハードルがそこには存在します。そこで『探究計画書のモデル』を生徒に提示しました。

このモデルは、高機能栄養食品を貧困地域に無料で届けているはっちゃん食品が、原油の高騰で支援活動ができない・・・それを知った白百合生が支援活動が続けられるように計画を考える・・・といった内容です。生徒たちはこのモデルを読み、自分達の活動ならこうなるだろう、こうしたい、という思いを文章にし、お互いに内容を共有しながら、『探究計画書』を作成。その後、複数の教員による添削指導を経て、各班独自の探究計画書が完成しました。

## ★アクティブラーニング～ベストティーチャー賞をもらえ！～

今回は『数学 A における協働的な学習』をテーマに、SGH を行っている LS コースの一年生対象に実施された授業の報告です。実施する単元は『数学 A 1 章 場合の数と確率』で、確率に関する問題を題材に、互いに教え学び合う時間を共有することで、思考の過程を確認し、確実な理解へとつなげる授業でした。特に、共有の場面では、グループで協力しつつ、生徒が先生として全体に授業する形式を取り、ビデオに収録。実施後、自分たちで授業の様子を確認し合いながら、効果的な教授法になっているか、質問に的確に答えることが出来ているか、板書の状況は整理されているか等々、更にパワーアップを目指してチェックも厳しく取り組んでいました。

| 日時                  | 探究プロセス       | 活動内容                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9/15<br>(火)<br>2 コマ | 課題設定<br>情報収集 | 数学 A の 1 章:場合の数と確率の授業終了後、演習課題として大問 18 題を提示。近くの 3～4 人で 1 つの班を形成し、全問を自分で解いてみてから、お互いに協働して正解を求める。(正解・詳解は配布しない)<br>また、班で発表する問題を決める。                                                                                               |
| 9/16<br>(水)<br>1 コマ | 整理・分析        | どのような解き方が理解しやすいか、また余事象を使わない場合の解答や、樹系図を活用した解答など、一つの問題に対し、視点を変えて、様々な解法を考察し、更に発表スタイルを考える。質問に対しても、どれだけの確に適切に対処できるか、また、班員の役割を明確化し発表に備える。                                                                                          |
| 9/17<br>(木)<br>2 コマ | まとめ<br>表現    | 班で解答・解説を黒板に板書し、代表者が解答までのプロセスを、以下の点に注意して全体に向けて解説。<br>・問題から読み取った、考察に活用する図を用いて的確に題意を解説。<br>・題意をくみ取った数式表現を解説。<br>・解答までの道筋を、順序立てて解説。<br>・解答までたどり着いたなら、解説のどこにポイントがあったか説明。<br>・別解がある場合、更に発表。その際、どの解法が最も有用かを説明。<br>・質問を受け付け、その場で答える。 |



### 【生徒の感想】

- ・実際に自分自身で問題を解き、班のメンバーと答え合わせをしてみると、様々な間違いや計算ミスが分かり、とても勉強になったし、皆で確認することで、自分の解法にあった不安が無くなった。
- ・友達の発表に感動し、自分もその様な発表が出来るようになってみたいと思った。
- ・いかに普段、先生が苦労しているのかが分かったが、発表することで記憶が増すので、是非次回もトライしたい。
- ・誰かに伝えることで、基本的な用語を正しく活用することができるようになった。本番、間違いに気付いたが、落ち着いて対処できたので良かったと思う。

## ★クラス内中間発表開催！

4月から進めてきた本校のSGHプログラム『グローバル・サーバント・リーダーの育成』は、9月12日にクラス内での分かち合いを終え、運営指導委員の先生方(藤井千春先生:早稲田大学教授、大村昌枝先生:宮城県国際化協会次長兼事業課長、中野裕弓先生:元世界銀行人事マネージャー・人事コンサルタント)を招いて、10月17日(土)に中間発表を開催しました。発表は7つの班ごとにそれぞれのテーマに沿って、質疑応答を含めて10分で実施。各班、PPTを作成したり、チラシや資料を配布したりと、オリジナリティーあふれるプレゼンテーションを展開しました。



前回からの反省点を踏まえて、原稿修正、PPT作成を皆で分担しながら試行錯誤して実施。本番では依然としてアイコンタクトが十分でなかったり、面白味に欠けていたり、流れがつかみにくかったりと、課題は満載であるが、感想用紙からは前回よりも反応が良かったことが分かり嬉しかった。11月にアドバイザーの先生との面談がある。充実した時間になるよう、しっかり準備したい。(Aさん)

今回はより効果的に密度の濃い発表ができたと思う。課題は台本を見過ぎてしまうところとPPTの文字の大きさ。次回までにしっかり作り直したい。弱者の視点を忘れない、自分と弱者とのつながりを意識するといった今まで私たちが重視してきたことを評価して頂き、とても嬉しかった。更に良く考え、つながりを確認しながら次の活動へと歩み出したい。(Hさん)



直前になって様々な資料も増え、視点の追加もあったが、今回は余裕を持って準備することができた。また聴衆を意識して話すべきことを暗記し、ボディアクションも充実させることができたのに、噛んでしまった。次回は克服したい。他の班も昼休みや放課後にしっかり準備していただけて、全体として落ち着いた発表だったと思う。課題解決に向け今後の探究活動を頑張ろうと思った。(Mさん)



発表は他者に見てもらってこそ、上達することを実感したし、情報は得ることも大切だが、情報を整理し取捨選択しながらまとめることはもっと大切であるということも痛感した。常に何が一番大切な情報なのか、一番伝えたい情報は何かを班員全員で考察しながら、今後の活動の道筋を明らかにしようと思う。(Sさん)



LS の生徒全員が、SGH の一回生である自覚と誇りを持ち、情熱と豊かな感性でプログラムに取り組んでいる様子が伝わる 90 分間ノンストップの報告会。最後に藤井先生より以下の講評をいただくことができました。



- ・全員が役割をもって発表する姿勢や、誰かのためにという視点、探究する中で、他人ごとではなく自分とつながっていることなのだという理解、とてもよくまとめられていました。
- ・今後も『これはおかしい、何とかしよう』ということを考え続けるために、想像力を大切にしましょう。
- ・質問し合うことであらたな視点が増えます。互いに教え合う関係を築けると探究が深まりますよ。

さあ、後半戦は台湾との関係という新たな視点を盛り込んで、テーマに沿ってさっそく探究開始です！

## ★GSL プロジェクト 20 より～シスター・エヴァについて～

このプロジェクトは、『本校が選定した 20 人のグローバル・サーバント・リーダーを広く一般の人々に伝える報告書を作成しよう！』という活動です。活動班は探究班とは異なるメンバーで構成されており、日本語で機関紙を作成した後、多言語でも作成。特に小学生や中学生が多言語を学ぶ際の学習教材を目指します。

一人目は、本校とのなじみも深いフィリピンの外科医、シスター・エヴァです。彼女は私たちの学園の母体であるシャルトル聖パウロ修道女会のシスターであり、2005 年に本校で、フィリピンでの活動の様子を伝えてくださいました。フィリピンにおいては国の最優秀外科医として表彰され、医療を通じて社会奉仕する活動に、多くの賞賛が寄せられています。

### GIRLS, BE AMBITIOUS!

◎ 仙台白百合学園高等学校

<http://sendaishyrinet/>

#### ～GSL20 プロジェクトとは～

このプロジェクトは、仙台白百合学園高等学校が、グローバル・サーバント・リーダー(GSL)にふさわしい人物20人を、一人一人自分たちで調べ、広く一般の方々にお伝えしつつ、GSLの行動力と精神をしっかり受け継ぐ探究活動の一つです。一回目は本校との関係が深い女性医師シスター・エヴァをご紹介します。彼女の強い信念と行動力。本校に求められた時のすがすがしい笑顔は、多くの人々の心をわすれませんでした。そんな彼女とは・・・

#### ～Sr.EVA(シスター・エヴァ)～

★エヴァ・フィデラ・マモ・・・フィリピンで活躍する医学博士



Sr. EVA FIDEA MAAMO はフィリピンのレイテ島で生まれ、3 人の兄弟と 8 人の姉妹を育ちました。兄弟たちの影響で外科医となりました。3 年間フィリピンで貧しい人たちのために治療を行いました。その後、本校と同じシャルトル聖パウロ修道女会に入会し、アエタ山岳民族の人々と 7 年間共に生活し、診療や手術を行いました。そのため Healing Nun(癒しの修道士)と呼ばれています。現在はフィリピンで平和のマリア財団の責任者として、スラムでの医療活動、医師の養成、ストリートチルドレンの教育施設の設立、少数民族の自立支援など、幅広く奉仕活動を展開しています。

#### ～Profile～

- 1941 フィリピンのレイテ島で生まれる
- 1966～ 医師として医療ボランティアに家族と参加
- 1969
- 1984 平和のマリア財団を設立
- 1986 600 以上の大規模な手術と 400 以上の小規模な手術を独自の手術法で行う
- 1992 ハーモニータ財団主催マザー・テレサ賞受賞(フィリピン)
- 1997 コミュニティリーダー部門ラモン・マグサイサイ賞受賞
- 1994 フィリピン最優秀医師賞受賞
- 2003 社会奉仕部門ラモン・マグサイサイ賞受賞
- 2005 仙台白百合学園表彰
- 2012 SOV賞受賞(The Search for Outstanding Volunteers)

- \*1 アエタ山岳民族の医療支援活動では資金が不足していたため、海外からの手術や治療の費用としてコスタの医療機関に依頼
- \*2 ラモン・マグサイサイ賞財団主催のアジア地域で社会に貢献した人に贈られる賞(アジアのノーベル賞といわれている。)
- \*3 フィリピンの人々や地域社会の発展のために貢献した団体の個人に贈られる賞

#### ～平和のマリア財団とは？～

Sr. EVA が所属している平和のマリア財団は非政府組織で非営利組織です。辺境の地にいないやられている人達が金銭的に成長していくことを目的として支援しています。

##### 財団が行っているプログラムの例

- ① Health program (健康面での支援)
  - 手術支援、母親の育児指導、給水サービス、マニラに無料の病院(教育面での支援)
- ② Educational program (教育面での支援)
  - 小中学生の子供達の教育、リーダーシップ養成(並列をたてていくための支援)
- ③ Livelihood program (生活面での支援)
  - 共同組合、店の経営、日用品や食品の製造
- ④ Spiritual & Values Formation program (精神面と価値観の支援)
  - 家庭訪問、洗礼、奉仕 など



フィリピン、ボランティア・スチューデント・エヴァの学生生活、アエタ山岳民族との交流の様子。

Sr. EVA への依頼メッセージはこちら！  
E-mail: [evass2002@yahoo.com](mailto:evass2002@yahoo.com)  
[evass2002@yahoo.com](mailto:evass2002@yahoo.com)

#### ～Sr.EVA の言葉～ 2005 年 本校での講演会より

Sr. EVA は「美しい人達を特に大切に。価値ある人として接しなさい」という教の教えを大切にしています。自分達が使っているテーブルやベッドも必要としている人達に差し出しました。

また、シャルトル聖パウロ修道女会と平和のマリア財団に所属し、支援活動を通して、自分達は与えられた多くのものを与えられ、人々が私達を神様のもとに導いてくれていることに気づきました。神様は名譽やお金ではなく、その人の価値であり、Sr. EVA は奉仕活動の栄光を全て返す場所を神様であると考え、神様のために生涯を捧げています。最近では「美しい国に貢献するには教育を受けられる人になることが大事」と教育支援に力を入れています。支援を受けた人々が支援する側になって成長してくれること・・・彼女にとって一番嬉しいことだそうです。

#### ～彼女の精神にふれて～

どのような状況下にある人々であっても、人としての尊厳を第一に考え、共に時間を共有し、相手の使命を見出す活動を展開する Sr. EVA。お金や名譽ではなく、人が人として成長する姿を一番に喜ぶ、まさにグローバル・サーバント・リーダーである。彼女の価値観・奉仕の精神と、何よりも強い彼女の「思いやり」を私たちはしっかりと受け継ぎ、自らのこととして考えながら、少しでも多くの場面に関わりマインドでアクションできるように成長したいです。

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

実は、当初の予定よりかなり遅れての発行となったのですが、いくつかの問題点は何とかクリアし、2 人目、3 人目と現在作成中です。どうぞ楽しみにして下さい。



企画制作：SGH 委員会